

平成 28 年度 第 1 回 滋賀県がん診療連携協議会

日時：平成 28 年 8 月 25 日（木）午後 2 時 30 分～

場所：クサツエストピアホテル 2 階 ^{ずいしょう} 瑞祥の間

○協議会構成員

真鍋会長（滋賀県立成人病センター 総長）

松末副会長（滋賀医科大学医学部附属病院病院長）、石川副会長（大津赤十字病院病院長）

宮地会員（成人病センター病院長）、清水会員（公立甲賀病院病院長）

金子会員（彦根市立病院病院長）、神田会員（市立長浜病院病院長）

高山会員（高島市民病院病院長）、猪飼会員（滋賀県医師会会長）

芦田会員（滋賀県歯科医師会会長）、山口副会長※代理（滋賀県薬剤師会）、

廣原会員（滋賀県看護協会会長）、吉村副会長※代理（滋賀県放射線技師会）、

岩井会員（滋賀県臨床検査技師会会長）、村西会員（滋賀県歯科衛生士会会長）、

菊井会員（滋賀県がん患者団体連絡協議会会長）、八木会員（滋賀県がん患者団体連絡協議会副会長）

藤本会員（滋賀県健康医療福祉部部長） 【欠席】高山会員（高島市民病院病院長）

○陪席

山内相談支援部会長（成人病センター 放射線治療科長）

大野地域連携部会長（大津赤十字病院 副院長）

水田がん登録推進部会長（成人病センター 院長補佐）

谷診療支援部会長（滋賀医科大学医学部附属病院 消化器外科診療科長）

協議事項

（1）平成 27 年度の取組および平成 28 年度の取組について

（協議会・企画運営委員会 事務局）

- ・滋賀県がん診療連携協議会等の名簿の更新について説明
- ・滋賀県がん診療連携協議会設置要綱等の改正について説明
平成 27 年度の議論の結果に基づき、部会の担当事項を改正
- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明

（相談支援部会 事務局）

- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明
がん相談員研修会、相談支援シートの標準化、滋賀の療養情報の評価・検証、がん相談後のアンケート、などの実施を予定

（地域連携部会 事務局）

- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明
「地域連携パスの評価」「がん診療連携に係る情報共有」をアクションプランに追加
9 月 25 日にがん地域連携パスフォーラムを開催する。

（がん登録推進部会 事務局）

- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明
がん登録情報の活用事例数を増やすことを目指す。
5 年生存率の算定に必要な実務者の研修を開催予定
2016 年から始まる全国がん登録に必要な研修を開催予定

(診療支援部会 事務局)

- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明
先進的（高度）ながん医療について「がん情報しが」に公開中
拠点病院や支援病院等で実施されている治験等の情報の収集を行っている。

(研修推進部会 事務局)

- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明
がん看護研修会を実施
医療人の育成に関する観点から、滋賀県病院薬剤師会を研修推進部会員に追加することを提案⇒協議会会員全員一致で承認

(緩和ケア推進部会 事務局)

- ・平成 27 年度の取組について資料を提示
- ・平成 28 年度の取組について説明
緩和ケア研修会について、今年度は開催会場に津市民病院と草津総合病院が追加となり、合計 10 回開催。
10 月 8 日に世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座開催予定

(看護協会)

看護研修の推進による看護の質向上について評価方法や、県内の認定看護師の育成に対する要望の有無について、検討していれば教えてほしい

(2) 第 8 回滋賀県がん医療フォーラムについて

(企画運営委員長)

・例年とは少し視点を変えて、先進的な取組ではなく、患者目線で、診断から治療までの一連の流れや情報を一般の方でも理解できるよう紹介することを目的としている。

(がん患者団体)

診断から治療までの短期間で重要な決断をするのは非常に至難なことである。根本的な情報をテーマとすることは良いと思う。
がんや治療方法について患者が理解するのは難しく、患者の同意だけでなく、患者の理解についても意識したインフォームドコンセントを考えて欲しい。

報告事項

(1) 滋賀県がん診療連携協議会として参加するイベントについて

(協議会・企画運営委員会 事務局)

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016 滋賀医科大学」および、「平成 28 年度滋賀県がん対策推進運動事業「がん検診ススメ隊」」の説明

(2) 国の動きについて

(協議会・企画運営委員会 事務局)

がん対策推進基本計画の見直しについて、現在の国の動き（がん対策推進協議会等）について説明

(3) 県からの報告事項等

(健康医療課課長)

がん教育の推進、共助を意識した団体や民間の活動支援、がん診療支援病院強化、がん患者の家計プラン事業、妊孕性温存治療の支援、など県の取組について説明

(協議会会長)

がん教育について、依頼があっても協力しない医師の存在が国の意見交換会でも問題になっていた。学校教育の単位として位置づけることで、がん教育を確実に推進できるのではとの意見も出ていた。

(健康医療課課長)

単位として位置づけるところまでは進んでいないが、がん条例ができたことで、教育委員会との協議が進むようになり、がん教育に関する教材の作成なども進めている。医師の協力を得ながら学校の教師が自らががん教育を行う素地は出来つつある。

(相談支援部会長)

医師が実際に子供たちの前で講義することは意義がある。ただし、資料作成の手間や教育の趣旨に合った講義内容の検討に苦勞していると思われる。

(健康医療課課長)

小学校編、中学校編、がんの部位別など、様々な教材の作成を行っている。

(がん登録推進部会長)

専門的な講義や経験談は医師やがん患者自身が行っているが、教育学を修了している学校教師が事前の学習や、事後のフォローアップなど、様々な努力も行ってくれている。

どのようなルートで学校から拠点病院に協力を依頼したら良いのかを悩んでいると聞いている。

(がん患者団体連絡協議会会長)

実際に学校に呼ばれて講義を行うことはあるが、限られた時間でがん教育を行うのは難しいと思う。極端にがんは怖いという印象を与えるのもよくないと思う。

がん教育の成果について、生徒にアンケート等を行うなどの案もあるかと思う。

その他

(滋賀県医師会長)

25年26年と医学会総会やりましたが、2年間がんをテーマにやらせていただきましたが、この素地があってそういうことを考えてやられたというのが、やっとここでわかりました。

がんについてもいろいろと医学会総会含めて血管とかメタボ関係中心にまた戻しましたが、勉強していきたいと思います。

それからぜひ先生方に御理解いただきたいのですが、基本的に今、医師会と医学会というのはどういう立場であるかということ、しっかり考えていかないといけない時期にあると思います。医学会というのはやはり医学、医療、未来と、医師会の役割というのは、それを制度の中に落とし込むことが一番大事な役割、つまりそれを落とし込んでいって、今の現医療の中であまねく全国にそれを普及するのが、医師会の仕事だと私は考えています。

県のほうも端的にもっとはっきり言うと、成人病センターさん、滋賀医科大学附属病院さんがおられるので、そのコラボはどうなっているのか、非常に疑問がありますので、それも含めてまたいろいろ教えていただきたいと思います。

(がん登録推進部会長)

お手元に資料「がん登録をどう活かす？」というセミナーのご案内ですが、お知らせと一つお願いがあってご報告させていただきます。これは第82回がん診療セミナーと書いていますように、成人病センターでがん診療セミナーをずっと続けてきております。この会の一連として行いまして、兼と書いてある疾病予防公開講座、疾病介護予防推進室でがん登録をやっております、このがん登録に関するセミナーをやるということで、その下に滋賀県医師会と書いてありますが、この度滋賀県医師会さんのほうから、うちのがん診療セミナーと共催という格好で、連携の会を催すという申出もいただいておりますので、これを開催させていただきます。

ちょうど今年から全国がん登録が始まりましたので、「がん登録をどう活かす？」というタイトルで行います。それにつきまして、その中身でがん登録推進部会からも演題を出させていただいております。ということでお願いと言いますのは、その共催のところに滋賀県がん診療連携協議会も入れさせていただけないでしょうかというお願いです。以上です。

(滋賀県医師会)

これも実はこういうことを、成人病センターがやっておられるのをうちの理事が気づいて、これは利用しない手はないということで、ぜひ共催させていただきたいとご提案、そしてお願いしたということです。よろしく申し上げます。

(真鍋会長)

できる限り連絡を密にするようにしていこうと思いますので、よろしく申し上げます。それから今水田先生からお話がありましたが、この共催の中に連携協議会の名前を入れていただきたいということですがこれはよろしいですね。そしたらそういう形にさせていただけるとと思いますので、よろし

くお願いします。

(滋賀県歯科医師会)

歯科ではがんの手術の術前術後の緩和ケアを進めるようにしております。がんの拠点病院には歯科がありますので、なるべく歯科と連携して緩和ケアのほうで口腔ケアを進めていただきたいと思います。特に化学療法で副作用で口腔内の炎症等で、食事がなかなか進まないということもありますので、できるだけそういうことでお願いしたい。病院歯科と連携していただきたいと思います。また口腔がんの早期発見も一応講習会を開いてやっておりますので、なかなか出席者も少ないですが、なるべく進めていきたいと思います。

(滋賀県薬剤師会)

県の薬剤師会としましては、在宅に薬剤師が出向く事が多いので、その中でがんに関することはホスピス薬剤師という認定制度をとって麻薬等を扱うことが多く、60 数人そういう薬剤師がおります。またそういった研修会等でお役に立つことがあれば、在宅ホスピス薬剤師というの皆さんの頭の中に入れていただいて、いろんな場面で活躍できるような場を与えていただければありがたいと思います。

(滋賀県看護協会)

先程県のほうから、がん教育の推進事業のお話があり、医師の先生方が講義に行かれる、あるいは学校の先生が教育にあられるということももちろんですが、命の授業という、小学校、中学校、高校あたり、妊娠、母性に関する部分が、助産師が教育委員会と連携を持ちながら推進している状況もあります。

がんの教育に関して医師の先生方だけでなく、看護師の資格を持った養護教諭や、専門領域の看護職の活用もぜひお願いしたいなと思っています。

(滋賀県放射線技師会)

当会といたしましては、放射線技師のがん診療に関わるところで、基礎知識等を底上げするために、県内の先生方にいろいろご協力賜りまして、いろいろ講演会講義等させていただいています。今年度も放射線技師の基礎知識等を高めるために研修会を開催したいと企画しております。

(滋賀県臨床検査技師会)

検査の方を主体にやっております、いろんな場面で啓発をしております。今回がん対策推進イベントという事業内容で、血液疾患とか病理関係の疾患について、子供たちがわかりやすく、怖がらずに入っていけるようにというイベント計画をしております。

教育の話がありましたけど、その中身に関して、共通的に一本の何かの筋があって、それに我々も一緒に臨床検査技師会として共通認識でやっていきたい。というのは、バラバラでは患者さんにとって怖いものと思われるら困りますし、子供達にとって、楽しくやりすぎると逆にこんなものかと思われるら困りますので、どういう教え方を小学校ではどういうモデルでやっているかというのを、検査技師会として教えていただきたいというのが要望であります。こういう患者さんに対してとか一般市民に対して、あとは病理とか細胞の検査に従事している人のための生涯的な教育を、もう少しレベルアップするための研修も組んでいく予定です。ご支援よろしくお願いします。

(がん患者団体連絡協議会会長)

先程の滋賀県がん医療フォーラムで少し提案させていただきたいのですが、私のほうからも病院とか治療法を短い期間の中で決めるのは至難の業と言いましたし、その時のベースになるインフォームドコンセントのやり方にも、患者はすごく戸惑ったりするので、そのベースになる患者が何を戸惑っているか、ペーパーにまとめてフォーラムの企画のベースとして、出させていただいたらいけないでしょうかというのが一つ提案です。

今日は資料を付けさせていただいております。今回初めてがん政策サミットの案内をここに資料としてつけさせていただきました。昨年度2月に近畿がん政策サミットというのを滋賀県がやりまして、本当に多くの方に来ていただきまして、がん政策をどういうふうに組み立てていったらいいかを、少し経験させていただきました。私たちはがん患者委員として、がん推進計画を立てる時に、本当に素人で言葉とかもわからなかったのですが、がん政策サミットという東京で全国のがん患者委員が集まる場所で、本当にいろんな勉強をさせていただきました。

そういったところに前回は患者委員も来ておりますが、第3期計画策定期で行政の担当者がたくさん来ておられましたし、病院の病院長とか病院の中からの参加もどんどん増えておりましたので、お忙しいと思いますが、ぜひ全国の委員が集まっておりますし、全国の病院の先生方の意見交換もできますので、ぜひ参加していただけたらなと思ってご紹介させていただいています。どうぞよろしくお祈いします。

(がん患者団体連絡協議会副会長)

追加させていただきます。お手元にあるかと思いますが、最初に資料の説明で出てきましたが、「がんを診断された時からの緩和ケア」というチラシですが、がん患者力、家族力向上事業の講演会でして、今年11月26日に滋賀県の米原にあります文化産業交流会館で行います。実際に患者として告知を受けた時に緩和ケアというのを知っているかというのと、それもなかなか知っていないというのが現実ですし、実際に医療の現場でどれだけできているかというの、まだまだこれからというところもあると思うのです。

そういったところで、「緩和ケアってなに？」ということで、患者力向上事業は3回目なのですが、これまでフロアとの議論というのが、最後のアンケートでたくさん出てきておりましたので、今回は特にフロアと私たち患者団体と医療者の方々のディスカッションを、できるだけ深めていきたいという方式でやりたいと思っております。

それから第二部としては、「最期まで目一杯生きる」ということで、緩和ケア診療所、これは群馬県の先生です。在宅とかホスピスとかターミナル関係のお話もありましたが、ぜひ参加いただきたいと思います。

最後になりましたが、診療連携協議会の緩和ケア推進部会のほうから共催ということで、了承いただいております。ぜひよろしくお祈いします。

(県健康医療福祉部長)

先生方には日頃からそれぞれのお立場で、がん診療の向上またがん患者さんの治療の向上に御尽力いただいておりますことを、心から感謝申し上げます。

県としましても皆様方の本当に必死の取組によりまして、県のがん対策が更に一層進んでいきますように、精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きましてご協力のほうどうぞよろしくお祈いします。また今日は様々なご意見いただきました。特に教育の関係でいろんな意見をいただきましたし、また看護師さん、検査技師さんそれぞれのお立場で、こうした教育に関しても関わっていただけるというような力強いお話をいただきましたので、そういった他職種の皆さんのお話の取組もお話いただける機会をどうやって作っていけるかということについても、今後教育委員会等と議論して調整していきたいと思っております。どうぞよろしくお祈いします。

(滋賀県歯科衛生士会)

いつもありがとうございます。滋賀県歯科衛生士会の村西と申します。先程芦田先生からもありましたけれども、私どもは周術期のほうの実務者というか実際に請け負わせて？いただく実務者として、また在宅のほうの実務者としても、人材育成、スキルアップ、それに加えまして、患者さんは今どのような状態でいらっしゃるかと、そのあたり寄り添える人材を育成していかなければいけないということで、色々な取組をしていきたいと思っております。本会として何かできるということはあまりないので、できるだけこういういただく研修会とか、取組にどんどん参加していきたいと思っております。どうぞよろしくお祈いします。

(市立長浜病院)

市立長浜病院の院長の神田です。当院は協議会で決められたことを実践していく病院ですが、割と当院としては、先進的な取り組みにうちのスタッフは取り組んでくれていると思ってます。がんフォーラムも200名か300名集める会を毎年開いていまして、ここに아가っていますがんを診断した時からの緩和ケアというの、二年前にテーマとして行いました。今年ががんフォーラムでは就労支援についてテーマで行っております。

先程お話にもありました教育関係に関しましても、数年前から出前講座のような形で地元の中学校に出向いて講義を行っております。いろいろ少ない人数でがんばっていますが、湖北の田舎の地にあって一番困っているのは、スタッフのマンパワーの問題です。最近だんだんと医師にしても看護師にしても専任とか専従とかの人を置きなさいという縛りが出てきまして、そういう人を探してやるのに非常に苦労しているのがうちの病院の一番の問題だと思っています。

(彦根市立病院)

彦根市立病院の金子です。最近の病院の救急の現場を見ていますと、やはり超高齢社会を反映して、その高齢者特有のフレイルあるいは重度の認知症でがんを持っていると。ご自分ががんだということ認識できないのではないかな、というような患者さんがやはり確実に増えてきています。そういう方に対してどう対応していかなければいけないのか。もう一点は訪問看護ステーションがあるのですが、そのがんの患者さんでも最期まで家に住みたいという方がおられる。ところがいよいよ最期のステージ、死の直前になって救急車で運ばれてくる。そのまま緩和に入るとその日のうちに亡くなってしまいます。こういう方が確実に増えてきています。

そういう超高齢社会を背景にしたがん患者さんの特有な面だとは思いますが、地域性もあるかもしれませんが、確実にそういう症例が増えてきているということを見ると、病院としてもそういったものに対して、何らかの対応を考えていかなければいけないのかなと考えています。

(公立甲賀病院)

公立甲賀病院の清水です。私も子供さんに研修をされているのはあまりよく知らなかったのですが、先程言われたようにどういう目的があるのか、もう一つ私には理解は難しいところで、いろいろな方向性があるのでしょうか、その辺が明らかにしていただければ、そういうのをどうやっていくかという話もできるのかなと思います。

もう一つは、今日は今年度の取組ということですから、どういう成果ということはないのですが、次の時には治療成績というより、緩和ケアであったりいろんな患者さんに対する情報の提供ということが、現実にもどのように県民の方々にメリットとして反映されるのか、もう一つ見えにくいと思いましたが、どのように見ていくかということも話をしていかないと、ただこんなことやりましたということでは終わっていないかという危惧を若干思います。以上です。

(成人病センター)

先程の菊井さんの提案に関しては、ぜひ申し訳ないけど、これから演者に依頼しますので、こんなことを知りたいと書けばたぶんお答えできるので、箇条書きでいただければ。これから依頼しますのでよろしくお願いします。

がん医療に関する情報が混乱しないよう、フォーラムでも標準治療を取り上げ、正当なものは何か、標準は何か、そういう視点から対応していかないと、と思いました。

(松末副会長)

様々な問題が提案され明らかになってきているように思います。今度第3期に向かって、第1期第2期でかなり研修とか医療の均てん化とかについては、その二次医療圏でみなきやいけないよねということで、整備されてきています。ところががんはだんだんと年齢と共に増える疾患で、先程もありましたけど、高齢者が非常に大きなテーマだと思います。高齢者でも一見治しうるようながんが、検診で見つかるかもしれない、じゃあ手術しましょう、あるいは治しましょうとなるのですが、なかなかそれだけでは解決しない問題がありますし、合併症も数倍高くなるようなことも我々よく経験するところです。

高齢者とがんというのはこれからのテーマになると思います。最近特定機能病院もいろいろバッシングされておりまして、群馬大学とかでの問題で先進的医療というのは、がん治療において、一方では進歩、一方では諸刃の矢というか、怖いものがあるということもあります。がんを治すという部分では、安全であるとか合併症がどうか、医療の質というものも、これから調べていかないといけないと感じております。

先程も看護協会からご意見がありましたが、研修とかいろいろ学習していますが、効果というかアウトカムがどうなっているかということです。がんのスタッフのほうもそうですが、治療成績のアウトカムも5年でもそれぞれの施設、日本の施設というのは、症例が欧米に比べたら一桁少ないので、大きな数でものを言えないというところがあります。そこをどういうふうに診療支援部門として、情報公開していくかが一つの課題だと思います。ですからがんを治してしまうという考えからする一つのサポートと、もう一つ、がんとともに共生するという観点からのアプローチがありますが、恐らくチーム医療ということで皆さんにいっぱい意見が出たと思うのですが、そういう考え方がこれから必要かなと感じました。

(石川部会長)

今日は各団体、あるいは部署から様々な要望、報告、提案をいただきました。聞かせていただきますと、今までにもまして、やはり建設的なご意見あるいは内容をいただいたように思います。これはこの会が充実してきた証拠ではないかと思えますし、来年は第3期の基本計画が始まりますが、それにそって今日お出しいただいたような内容を、宮地先生の企画運営委員会でいろいろな提案してくださって、非常に前向きなご意見をいただいておりますので、今後の企画に期待して次回に迎えたいと思っています。どうも今日はありがとうございました。

(真鍋会長)

皆様どうもありがとうございました。それでは以上をもちまして本日の協議会を終了させていただきます。なお今年度の第2回のがん診療連携協議会については、来年3月23日の開催を予定しています。開催日が近づきましたら、改めて事務局から正式にご案内させていただきますので、どうぞ皆様方のご参加をよろしく願います。本日はお忙しいところありがとうございました。